

2010年10月26日

### ＜生物多様性の保全への取組み＞

「日本興亜の森林(もり)」を2020年までに10カ所へ拡大します。  
国内外の森林整備事業も支援していきます。

日本興亜損害保険株式会社（社長：兵頭 誠）は、生物多様性の保全にかかわる中期目標を設定しましたのでお知らせします。

#### ■「日本興亜の森林(もり)」を10カ所へ拡大

私たちの生活は自然からの恵み（＝生物多様性の恵み）によって支えられています。しかしながら、人間の活動や開発行為により、かつてないスピードで生物種の絶滅が進み、生物多様性の危機を迎えています。また、生物多様性が失われることで、気候の制御・調整機能が低下し、土砂災害や洪水などの自然災害が増加する可能性が高いことから、保険事業は生物多様性に大きく依存しているといえます。

日本興亜保険グループでは、このような認識のもと、ペーパーレスの仕組みを推進するとともに、「日本興亜の森林(もり)」を1998年に八ヶ岳山麓に創設したのを皮切りに、現在、全国に4カ所の森林(もり)を設けています。

今後は、森林を持続可能な資源として整備・保全し、企業としての責任を果たすことを目的として、「日本興亜の森林(もり)」を2020年までに10カ所へ拡大することを目指します。

「日本興亜の森林(もり)」の設置状況（2010年10月現在）

森林の名称	森林の所在地	設置日	樹種	面積
日本興亜の森林（長野）	長野県・富士見町	1998年10月	カラマツ	5.13ha
日本興亜・畑山の森林	高知県・安芸市	2007年8月	スギ、ヒノキ	30.94ha
日本興亜 宮崎・にしめらの森林	宮崎県・西米良村	2008年6月	スギ、ヒノキ、ケヤキ	12.28ha
日本興亜・千葉房総の森林	千葉県・君津市	2009年6月	ヒノキ	1.24ha

#### ■国内外の森林整備事業を支援することで、紙・印刷物の使用に伴うCO<sub>2</sub>をオフセット

日本興亜保険グループでは、国内外の森林整備活動を支援することで、2020年の紙・印刷物使用に伴う排出量として予想される3,300t-CO<sub>2</sub>（中期目標の計画値）分の吸収量確保（オフセット）を目指します。なお、このうち1,300t-CO<sub>2</sub>分については、「日本興亜の森林(もり)」による吸収量確保（オフセット）を目指します。また、今後は国内の間伐材の利用にも取り組んでまいります。

以上

